

### 【精度管理表】

管理血清の表示値を入力する。

CV(%)欄に入っている許容誤差限界値より、SDの値が自動的に計算される。

LL欄には、表示値からSDを引いた値が表示される。

HL欄には、表示値にSDを加えた値が表示される。

### 【週間管理表】

精度管理表と同じ計算式が入っている。

管理血清の表示値を入力する。

CV(%)欄に入っている許容誤差限界値より、SDの値が自動的に計算される。

LL欄には、表示値からSDを引いた値が表示される。

HL欄には、表示値にSDを加えた値が表示される。

### 【Xbar-Rs-R管理図】

- ① グラフを作成する項目に対するY軸の目盛を設定する。
- ② 毎月の準備
- ③ 毎日の入力

- ① グラフを作成する項目に対するY軸の目盛を設定する。  
(項目ごとの雛型を作っておくと便利)  
Y軸目盛は、管理血清の表示値が変わるごとに設定を変更する。

管理血清の表示値と許容誤差限界値(CV(%))を入力する。

LL	表示値	HL	SD	CV(%)	Rsbar	Rbar
0	0	0	0		0.00	0.00
0	0	0	1			
0	0	0	2			
0	0	0	3			
0	0	0	4			

UCL	UCL
0.00	0.00

## Xbar管理図

±1SDから±(SD×4)までの値が計算される。

Xbarのグラフで

Y軸の上で右クリックして 軸の書式設定 → 目盛

軸の書式設定

パターン 目盛 フォント 表示形式 配置

Y/数値軸目盛

自動

☐ 最小値(N): 53.36

☐ 最大値(O): 62.64

☐ 目盛間隔(A): 1.16

☐ 補助目盛間隔(O): 0.232

☒ X/項目軸

との交点(O): 53.36

表示単位(U): なし ☒ 表示単位のラベルをグラフに表示する(D)

☐ 対数目盛を表示する(L)

☐ 軸を反転する(R)

☐ 最大値で X/項目軸と交差する(M)

OK キャンセル

最小値 に SD×4のLLの値を入力する。

最大値 に SD×4のHLの値を入力する。

目盛間隔 に SDの値を入力する。

値を入力したところは 自動の ☒ をはずすこと。

## Rs管理図

Rsbar と UCL の値が計算される。

Rsのグラフで

Y軸の上で右クリックして 軸の書式設定 → 目盛

最小値 に 0を入力する。

最大値 に UCLの値を入力する。

目盛間隔 に Rsbarの値を入力する。

値を入力したところは 自動の ☒ をはずすこと。

## R管理図

Rbar と UCL の値が計算される。

Rのグラフで

Y軸の上で右クリックして 軸の書式設定 → 目盛

最小値 に 0を入力する。

最大値 に UCLの値を入力する。

目盛間隔 に Rbarの値を入力する。

値を入力したところは 自動の ☒ をはずすこと。

### ② 毎月の準備

雛型をコピーし、曜日を入力する。

日曜・祝日など管理血清の測定をしない日は、  
Xbar、Rs、R のセルの中にある式を削除しておく。

### ③ 毎日の入力

1回目と2回目の測定値を入力する。

2回目の測定ができなかった日は、Rを値を削除する。

## 参考文献

① (社)日本臨床衛生検査技師会編集:臨床検査精度管理教本, 近代出版, 1998.

② 金井正光:臨床検査法提要 改訂第32版, 金原出版, 2005.